

平成25年度「みんなの審査会」～市民参加型事業評価～審査結果詳細

事業番号	1-③	事業名	外国人生活支援の推進事業			
所管	文化観光	局	国際	部	国際	課

<b>【事業内容】</b>				
国際交流プラザを拠点とし、市民の国際ボランティア活動の促進をはじめ、多言語 FM 放送や「生活必携堺市版」などによる生活情報の提供及び、行政書士等との連携による生活相談の実施、並びに日本語教室への助成や日本語指導講座者研修の開催などを通じて、外国籍市民も住みやすい多文化共生のまちづくりを推進する。				
総コスト(千円)	(平成 24 年度決算額)	22,321 千円	(平成 25 年度予算額)	30,843 千円

**【市民審査員・検討委員から頂いた審査シート記載内容】**

<b>【今後の方向性】</b>													
＜市民審査員＞					＜検討委員(参考意見)＞								
今後の方向性	事業の方向性	拡充			5	4	今後の方向性	事業の方向性	拡充			2	1
		現状維持			8	1			現状維持			2	
		縮小							縮小				
		廃止							廃止				
			ゼロ	縮小	現状維持	拡大				ゼロ	縮小	現状維持	拡大
公金投入の方向性					公金投入の方向性								

**【今後の方向性】《事業の方向性—公金投入の方向性》を選択した理由**

《拡充—現状維持》

- ・「多文化共生社会」を推進するためには、事業の拡充が必要である。ただし、公金の投入については現状維持でお願いしたい。
- ・専門的知識を有する通訳ボランティアを養成していただければと思います。
- ・外国人生活支援のサービスや市民との交流イベントなどをより充実させるのが良いと思ったため。
- ・事業の外国人への支援はとても充実していると思いました。さらに、ボランティアの人たちと連携を強化して支援の充実を図ってほしいです。
- ・外国の方と日本の考え方の違いがあり、外国の方の目線を重視し事業を行うこと。
- ・ボランティア活動をより積極的に活用願いたい。
- ・方向性に問題は感じないが、他にまだやれることがあるように感じる。

《拡充—拡大》

- ・事業の対象となるのは外国人登録者だけでなく、中国帰国者とその家族、国際結婚による子どもなど、外国にルーツを持つ人たちも含まれ、困難な状況はまだ改善していない。外国籍住民として生活していくためには、国際課が主管課となり、福祉、健康、教育、就労などを支援する横軸の推進体制を作っていただきたい。市民の意識啓発の取組みもまだまだ必要と思われる。
- ・今後外国語利用される方が増加していくのであれば、現状の制度、予算では不十分であると思うので。在日二世や三世の方の為の事業とは異なるべきではあると思う。
- ・外国人の人が困らない社会を作ること自分たちにとっても困らない社会になるのだと思う。これから先は支援サービスを通じて市民の中に拡がる施策の具体策をこれからも推進して行ってほしいです。
- ・日本人であるが、帰国子女の日本生活の行動を両親だけでなく、市民としての協力を行っていききたい。
- ・各区でサテライト機能の充実。ボランティアの活動と共に。
- ・外国人生活支援施策等、PR活動等、市民に広めてほしい。

《現状維持—現状維持》

- ・公的セクター(国—県—市町村)における役割分担をもう少し整理していただきたい。現段階では左記の整理を踏まえることができないため、「現状維持」とさせていただきます。
- ・多文化共生のまちづくりを念頭に置いた場合、当然ある一定の外国人生活支援は必要と思います。したがって現状維持とします。
- ・広報さかいをもっと活用したら良いと思う。

## 【今後の方向性】

- ・正直事業活動の内容がよく理解できません。
- ・効果的な支援のあり方の検討。
- ・外国人が増える中対応していかないとけない事業だと思ふ。
- ・生活の支援をすることでトラブルが減ると思うので、ハード、ソフト両面から積極的な支援を続けて行ってほしい。
- ・ボランティアに依存する部分が多いがやむを得ない。
- ・在住外国人の不便が無いのなら(クレームが無いのなら)現状維持で良い。
- ・外国人住民人口の増減、新たに必要なサービスの追加に応じて予算の増加も必要と思います。

## 《現状維持—拡大》

- ・外国人ひとり当たりの事業費の額が2,600円という回答を聞いたので。

## 【改善策について】(複数回答あり)

		市民審査員	検討委員
改善すべき点	事業の実施内容について見直しが必要(サービスそのもののあり方等)	4	2
	事業規模について見直しが必要(サービスの水準や対象者等)	1	2
	関連事業とのあり方について見直しが必要(統合や再編を含めたあり方等)	3	1
	サービス受給者の負担(受益者負担)について見直しが必要	5	0
	市以外からの財源の確保について見直しが必要	4	1
	担い手のあり方について見直しが必要	0	1
	その他	2	1

## 【具体的な改善策提案】※【今後の方向性】で選択した《事業の方向性—公金投入の方向性》ごとに記載

## 《拡充—現状維持》

- ・FM放送以外のPR方法を検討していただきたい。
- ・多文化共生は、日本国民(ここでは外国人の隣人である堺市民)が「外国人が外国人のアイデンティティを壊さずに生活していて、それが尊重されることです。神戸、京都、横浜などは比較的市民にそういうムードがあります。大阪人は(「大阪に表面あわせて」という目線が顕著で、堺市職員もそこから離れられない印象を持ちました。留学生が母国に帰国して政府高官になった時日本に敵意を持たないように逆にファンになってもらえるかは大きいと思います。
- ・サービス等の充実が必要。
- ・専門性を有するボランティアの養成。
- ・国際交流プラザとともに認知度を上げる。
- ・日本人でも食えないものが、外国人が日本で食べますか。
- ・有田委員の言っていたように、横一本化で市全体として一つの部署なり担当する課なりがあれば良いのではないかと思います。

## 《拡充—拡大》

- ・市の規模からはボランティア登録者が少ない。また、国際交流、外国人支援NPOが充分成熟していないように思われる。行政がしなければならぬこと(環境整備等)と市民が支える仕組みをつくり、役割分担していくことが望ましい。意識啓発や情報提供は活字媒体を作ることで十分ではない。当事者の声を聞きながら、ニーズに合った提供のあり方に。また、事業企画もマンネリ化している。若い世代や外国人が参加して企画、実施していく仕組みにした方が良い。
- ・ボランティア通訳の方の審査は厳しくした上で、業務上の訴訟や事故が起こってしまった場合には、市側の責任で解決にあたるような保険加入をしても良いのでは。事案ごとにボランティア通訳者のレベル分けをする。
- ・先日、外国語がしゃべれる子どもを育てたければ、自分の近所に住んでいる外国人の方と話したりして、興味を持つのが一番いいですよとテレビか何かで聞きました。支援サービスから始まった事業が一方通行ではない、どちらからも働きかけのできるようにいつかなることに期待します。
- ・市民としての、外国人を十分に援助して、堺市はすばらしいと思うようにしてほしい。
- ・全く知らなかったなので、これから更に内容を市民に知らせてほしい。

**【改善策について】**

## 《現状維持—現状維持》

- ・堺市が特徴とするボランティアの活用については支持します。羽衣国際大学には中国、韓国、ベトナムの留学生がいますので、優秀な留学生につきましては活用して下さい。
- ・予算がもう少しいるのであれば上に訴えるべき。
- ・国際交流プラザ運営と一本化できませんか。
- ・利用者からの手数料徴収は可能かと思えます。
- ・堺市だけでなく国からも支援等を受けても良いと思う。利用者等が減れば統合、再編したら良いと思う。
- ・ボランティアのスキルアップ、援助などはもっと必要かと思う。
- ・基本的にはサービス受給者の受益者負担が原則と思うが、負担能力面からやむを得ないのか。受益者負担割合を増やす努力が必要と思う。
- ・サービス受給の資格者の明確化。(収入等)

## 《現状維持—拡大》

- ・外国人一人当たりに対応する金額が少なすぎるため。

**【自由記入欄】**

## ・多文化共生

- 日本語でしか説明されていないことを判り易く訳することが出発点だと思うので、行われている事業はどれも必要だと思います。しかし、それでは一方通行であり各国の人の考え方の特徴や、例えばボディランゲージでも真逆な意味の動作があり、そういう啓発が一般(日本人)市民に向けての施策では必要。(例えば、「マンガで見る〇〇人の生活・宗教・考え方の癖」ホームステイに配布。)
- ・私は若い時、外国の方とも遊んだこともあります。日本に来れば食べられると思えば言葉も分からないのによく頑張ったが日本の環境とまた違い苦勞し頑張っている場合、支援してあげべきと思う。